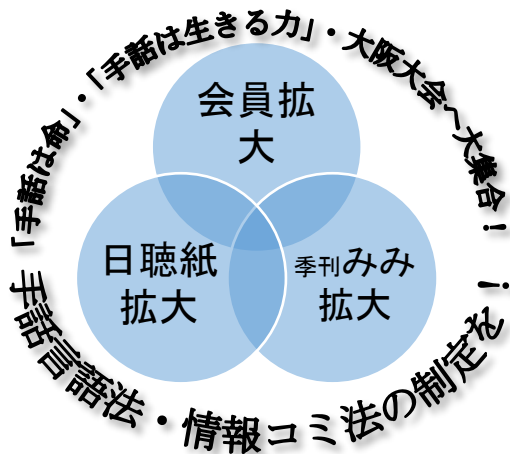


# 組織委員会ニュース

平成29年度4号

(通算232号)

(2017年10月17日発行)



本ニュースは、当連盟加盟団体の事務局と各ブロック事務局に電子メールにてお送りしています。貴加盟団体・地区協会役員へご普及していただきますようお願いいたします。

〔発行責任者〕一般財団法人全日本ろうあ連盟  
組織委員会委員長 小出真一郎  
FAX 03 (3267) 3445

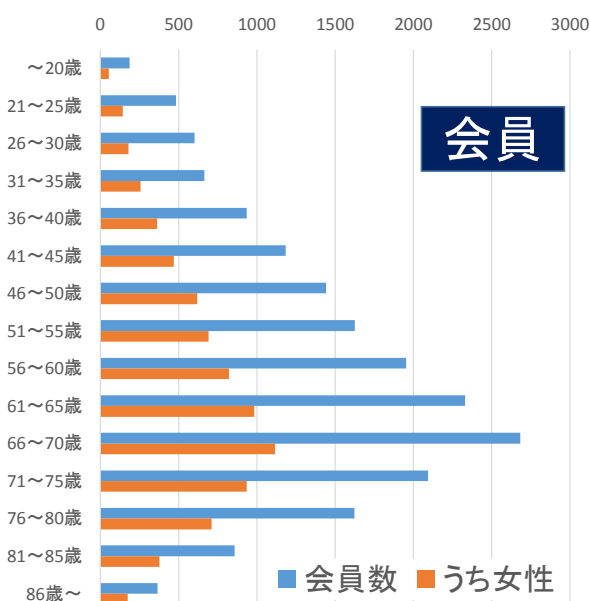
## 1. 「三拡大活動」と『70年史』普及へのご協力を！

70周年記念事業はおかげさまで成功裡に終わりました。引き続き『全日本ろうあ連盟 70年史』の拡販で、連盟の70年の歴史とろうあ運動の大切さを訴え、連盟会員拡大、日聴紙拡大、季刊みみ拡大の「三拡大活動」、そして、手話言語法、情報・コミュニケーション法の制定運動につなげて行きましょう！

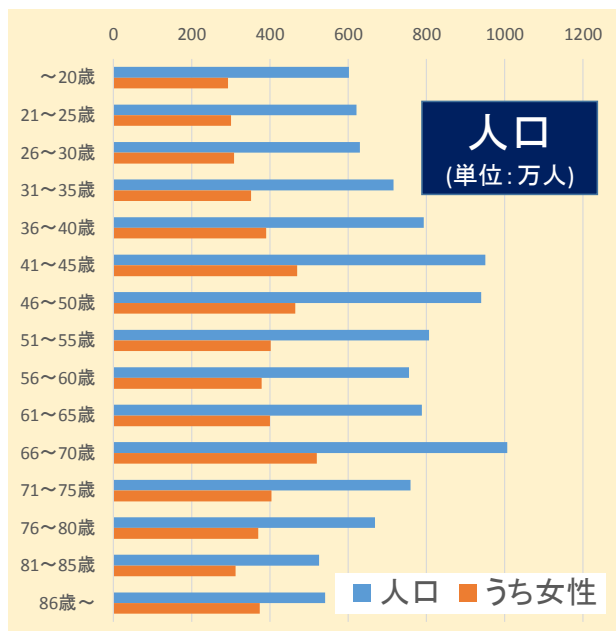
## 2. 会員数“連続減少”をストップさせよう

2016年度の登録会員は、19,369名となり、昨年比マイナス390名となりました。会員数ブロック別の会員数の増減については、人口の集中している関東、東海、近畿は、依然として厳しい状態が続いています。加盟団体の動向アンケート結果、66~70才をピークとした高齢層に比重が多くなっています。また夫婦のどちらかだけ会員になる傾向が強まっています。

## 会員の年代比・性別比(国民人口比)



※年齢不明分(244名)除く



※政府統計より(平成29年7月時点)  
~20歳は「15~19歳」とした

→21~50歳の会員層が薄い、女性比も低い

今後、「手話言語条例」制定の動きにより、全国的にその運動を拡げていくことで、ろう学校の活性化を図り、インクルーシブ教育にも手話のこと、ろう者の存在等の情報を発信していくという将来像、展望に取り組んでいかなければなりません。今年度こそ20,000名台への回復を目標に、意識高揚と普及促進に努めていきましょう。

2017年9月末現在の分担金納入状況は、17,952名です。(東北ブロック除く)猶予願いの提出があった加盟団体は8団体で、20,000名台への復帰への見通しはまだ厳しいものがあります。しかし、昨年より会員が拡大した協会が現時点で6協会(茨城・群馬・埼玉・愛知・山口・佐賀)もあります。拡大した協会に理由を聞くと「情報提供施設が開所してから相談に来るろう者に会員になってもらっている」(愛知)、「高齢会員は減っているが、地域の役員が運動を知らない若い人に声かけをし、集まりに誘ったことで若い人が会員になった」(山口)などの取り組みをされています。他の協会も会員を着実に増やすため、会員拡大の取り組みを引き続きよろしく願います。  
(網掛けは猶予願いの提出があった協会です)

## 2017年9月末の納入状況

	2016年度	2017年9月 末現在	増減		2016年度	2017年9月 末現在	増減
北海道	1,213	800	-413	滋賀	368	351	-17
青森	296	290	-6	京都	632	565	-67
岩手	170	160	-10	大阪	1,342	1,269	-73
宮城	250	250	0	兵庫	763	755	-8
秋田	141	141	0	奈良	274	240	-34
山形	200	193	-7	和歌山	274	250	-24
福島	420	420	0	鳥取	200	200	0
茨城	300	306	6	島根	100	100	0
栃木	393	323	-70	岡山	282	282	0
群馬	481	483	2	広島	630	600	-30
埼玉	1,010	1,013	3	山口	154	161	7
千葉	483	419	-64	徳島	93	85	-8
東京	1,267	1,233	-34	香川	199	191	-8
神奈川	876	624	-252	愛媛	201	166	-35
山梨	157	124	-33	高知	184	170	-14
新潟	273	267	-6	福岡	911	891	-20
長野	321	246	-75	佐賀	100	102	2
富山	280	200	-80	長崎	325	325	0
石川	335	330	-5	熊本	363	363	0
福井	130	130	0	大分	356	346	-10
岐阜	363	350	-13	宮崎	210	208	-2
静岡	589	562	-27	鹿児島	190	190	0
愛知	859	871	12	沖縄	103	103	0
三重	308	304	-4	合計	19,369	17,952	-1,417

### 3. 日聴紙購読者数状況について

日聴紙は、2017年度（4/1～9/30）増減累計で362部減少しています。皆様の更なる読者拡大へのご協力をよろしくお願い申し上げます。目標23,000部に対して達成率56.5%と、まだまだ拡大していく必要があります。福井県では、手話講習会の受講生に対して地道に日聴紙について説明し、「皆読んでいるよね」と購読をお勧めした結果、受講生の8割～9割が購読しているとのことでした。

	目標数	2015年 3月31日	2016年 3月31日	2017年 3月31日	2017年 福岡大会	2017年 9月30日	2017年度 増減累計
北海道	997	538	525	612	620	566	-46
北海ブ	997	538	525	612	620	566	-46
青森	251	199	187	167	162	158	-9
岩手	243	98	97	122	117	115	-7
宮城	421	130	122	129	131	126	-3
秋田	199	82	83	80	76	73	-7
山形	214	114	108	98	96	98	0
福島	369	305	316	323	318	298	-25
東北ブ	1,697	928	913	919	900	868	-51
茨城	534	134	140	154	145	139	-15
栃木	362	140	133	154	147	139	-15
群馬	362	212	249	229	227	217	-12
埼玉	1,283	489	526	529	535	530	1
千葉	1,105	665	670	671	691	702	31
東京	2,319	1,439	1,422	1,489	1,472	1,436	-53
神奈川	1,610	580	554	545	539	529	-16
山梨	157	100	85	89	92	84	-5
関東ブ	7,732	3,759	3,779	3,860	3,848	3,776	-84
新潟	431	173	159	163	166	163	0
長野	391	199	194	182	182	177	-5
富山	198	142	152	139	149	137	-2
石川	210	422	390	358	426	376	18
福井	146	136	192	211	227	249	38
北信ブ	1,376	1,072	1,087	1,053	1,150	1,102	49
岐阜	377	185	172	164	159	155	-9
静岡	683	573	550	546	540	519	-27
愛知	1,330	618	600	601	589	577	-24
三重	336	273	330	289	337	271	-18
東海ブ	2,726	1,649	1,652	1,600	1,625	1,522	-78
滋賀	252	164	153	145	145	142	-3
京都	474	433	474	453	472	436	-17
大阪	1,588	1,309	1,209	1,268	1,424	1,181	-87
兵庫	1,006	465	468	550	561	539	-11
奈良	253	226	226	241	246	236	-5
和歌山	182	102	90	85	85	87	2
近畿ブ	3,755	2,699	2,620	2,742	2,933	2,621	-121

鳥取	107	157	157	156	166	162	6
島根	130	120	111	117	118	113	-4
岡山	351	133	139	132	133	133	1
広島	516	277	273	257	264	263	6
山口	263	110	109	108	106	104	-4
中国ブ	1,367	797	789	770	787	775	5
徳島	143	38	36	34	34	32	-2
香川	180	85	84	78	79	76	-2
愛媛	260	68	66	69	70	70	1
高知	139	68	62	58	60	58	0
四国ブ	722	259	248	239	243	236	-3
福岡	910	523	486	554	541	500	-54
佐賀	154	58	59	58	60	59	1
長崎	259	219	193	219	215	190	-29
熊本	328	289	275	302	373	318	16
大分	216	106	92	84	82	77	-7
宮崎	204	157	139	150	184	173	23
鹿児島	309	127	128	118	126	132	14
沖縄	248	74	74	73	77	76	3
九州ブ	2,628	1,553	1,446	1,558	1,658	1,525	-33
合計	23,000	13,254	13,059	13,353	13,764	12,991	-362

9月30日現在

	日聴紙購読者目標達成率		2017年度比較部数累計増	
	ベスト10		ベスト10	
1位	石川	179.0%	福井	38部
2位	福井	170.5%	千葉	31部
3位	鳥取	151.4%	宮崎	23部
4位	熊本	97.0%	石川	18部
5位	奈良	93.3%	熊本	16部
6位	京都	92.0%	鹿児島	14部
7位	島根	86.9%	鳥取	6部
8位	宮崎	84.8%	広島	6部
9位	福島	80.8%	沖縄	3部
10位	三重	80.7%	和歌山	2部

## 4. 2017年度第1回全国ブロック代表者会議報告

2017年8月19日（土）17:30～19:30に福山市立大学で2017年度第1回ブロック代表者会議が行われました。東北ブロック以外の8ブロックより出席がありました。

まず、福祉担当者会議との合同学習会が行われ、テーマ「我が事・丸ごと」について、厚生労働省の地域共生社会実現に向けた今後の制度整備について学びました。

そのあと、諸課題について、各地域の取り組み報告がなされた後、組織全般にわたって活発な意見が交わされました。

### 【組織委員会の2016年度の活動総括について】

会員拡大、日聴紙拡大、季刊誌みみ拡大、あわせて三拡大運動を進めている。評議員会にて日聴紙・みみの新しい表彰を執り行うことができた。今年度は来年2月に三専門部の合同研修を予定しているのでよろしくお願いしたい。

- ・表彰だが、敗者復活戦のような形で表彰のチャンスを増やすことを考えて欲しい。
- ・「拡大」ということばは、押し付け感がある。何か別のことばないだろうか。  
→意見交換後、今のまま「拡大」とすることにしました。

### 【会員動向アンケートの分析結果について】

全体的に高齢化の傾向が進み、若い人の負担が増えていく状況にある。また、全国的に夫婦会員のどちらかがやめる傾向があり、女性会員が大幅に減少していることがわかった。今後、夫婦が一緒に入る状況をどう作っていくか課題である。

#### ◆成人式企画について

敬老企画の実施率62%に対し、成人企画の実施率が17%と低いのはどういう原因が考えられるか？ろう教育との関わりが影響しているのか？

- ・栃木は県から助成が出ている。埼玉ではろう学校の卒業生を励ます会の形で実施している。
- ・各ブロックでろう学校を励ます会を実施している県の情報は把握しているか？  
→（わかる範囲で）埼玉県、石川県、福井県、新潟県、鳥取県、高知県、兵庫県
- ・広島県は昔はやっていたが今はやっていない。
- ・高知県は昔は成人式をやっていたが、県外に出る人が多く励ます会に変わった。
- ・九州では人工内耳に関するアンケートがあり、校長会からろう協に交流したいとの要望が来た。前向きな対応で良かったと思う。校長とのパイプづくりが大切。
- ・兵庫県では毎年1月第三日曜日のろう者新年大会のときに成人祝いのつどいを実施している。若い人とのコミュニケーションがとれるいい機会。対象者もろう者先輩との交流出来る場が出来てよいとのこと。

#### ◆青年部、女性部、高齢部について

- ・統計を見ると、各地域で青年部や高齢部の入会条件がまちまち。このままでよいのか。統一する必要はないのか。
- ・全青研では女性の参加者が増えてきている。逆に男性の参加者が少ないのが課題になると思う。青年部は女性が役員を兼ねている人が多い。
- ・デフリンピックやスポーツは男性の方が多いのでは。

#### ◆夫婦会員減少問題について

- ・生活が大変なろう者が多いのは事実。しかし、逆に高齢部で友人に誘われて再度夫婦会員に

なる人もいます。高齢者ほど孤独感が強い。

- ・夫婦会員をやめる人の声を聞くと家計が苦しい、家庭の事情などの声が多い。
- ・分担金値上げの影響もある。みんな悩んでいる。
- ・東海でも同じ問題を抱えている。65才を過ぎたり、配偶者が亡くなると戻る人もいます。
- ・全日本ろうあ連盟でも夫婦会員制度をつくれないうか。
- ・近畿では、会員をやめても他の所から情報をもらえるので困らない、新聞2つは無駄、女性の配偶者を外（社会）に出さないという人もいます。
- ・中国では東地区と西地区で状況が違う。東地区は夫婦会員が当たり前という風潮であり減少はないが、西地区は同じものを2つはいらぬということて会員が減っている。夫婦割引だけでは行き詰まる。
- ・四国では、子どものお金がかかる、生活が苦しいという声が多い。  
一方、設置通訳者が「協会に入るとよい」と非会員に情報提供してくれる。

### 【日聴紙・季刊みみの拡大について】

#### ◆販売戦略について

- ・イベントや講演会等でPRしている。
- ・バックナンバーをつけてお得感をつける。バックナンバーだけ欲しい人もいます。
- ・聞こえる人の購読者が聞こえない人の購読者より多いのが現状。聞こえる人にどのように売り込むか考える必要がある。
- ・日聴紙拡大データや表に「聞こえる人」「ろう者」の過去比較データを入れ込んで欲しい。
- ・以前より読みやすいフォントになって、少しは売れ行きが伸びた。
- ・北海道では、役員：読む 会員：読まない・いらぬが多い。特に高齢者で読む人は少ない。

#### ◆読まない、読めないという人への対応について

- ・特によく言われているのが、「高齢部ニュース」で500円は高いと言われている。もっと安くして、読みやすくしてほしい。
- ・AR（仮想現実）アプリを導入して、新聞にスマホ向ければ手話で解説するという仕組みがあればよい。
- ・そもそも、高齢者は興味の幅が狭くなっており、関心のない記事が多いのが現実。

### 【旅行業法への対応について】

- ・特に旅行が多いのは高齢部で、高齢部への影響が大きい状況にある。
- ・問題の発端は京都の青年集会であったが、翌年度の奈良集会では、県の理解があった。県によっても対応はまちまちなので、県にも確認するとよいと思われる。
- ・個人レベルはインターネットで宿泊手配してしまうから、各大会実行委員会も大変。

#### 【もう一度 呼びかけてみよう 三拡大】

- ・会 員…昨年度会員で継続されてない方はいらっしやいませんか？  
ろう学校卒業生・地域の若いう者に声をかけてみませんか？
- ・日 聴 紙…学習会などの教材としての活用や、情報共有の素材として使っていますか？  
講習会の受講生・サークル会員に購読を促していますか？
- ・「MIMI」…毎号の「特集」（2017年夏号：ろう者の資格、秋号：福岡大会）にあった読者層に「興味があるものが載っているよ」とおすすすめしてみましよう。